

## 第 1 回総務文教常任委員会 会議記録

日 時	開会	令和 4 年 5 月 13 日（金）午後 2 時 35 分				
	休憩					
	閉会	令和 4 年 5 月 13 日（金）午後 3 時 35 分				
会議場所	斜里町総合庁舎 3 階 委員会室					
出席委員	委員長	久 野 聖 一		委員	久 保 耕 一 郎	
	副委員長	木 村 耕 一 郎		委員	若 木 雅 美	
	委員	今 井 千 春(～15:10)		委員	海 道 徹(～15:10)	
欠席委員						
参 考 人						
傍聴者数	一 般 者	名	報 道 関 係 者	名	議 員	名
事務局職員	事務局長 平田 和司		議事係 鶴巻 美奈			
<p>総務文教常任委員会を開催したので下記により記録する。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1. 道内所管事務調査について  (説明者：説明・提案内容)  久野：実施に際しての経過説明。</p> <p style="padding-left: 2em;">道内所管事務調査の実施に際して、4月26日に事前質問を取り纏め、27日に各委員に送った。このとき、23日に発生した事故の関係もあったため5月2日に集まり協議する点を打診していたが、5月13日（本日）で構わないということだったため、本日最終確認することとした。2名の委員から実施時期を変更したほうがよいのではとの意見も聞いている。しかし、任期最終年ということ、事前にあらかじめ決定しており相手方にも了解を得ている。時期を変更するとしてもコロナの状況などもあり、行けるときに行くとして本当なら全員参加が望ましいと思うので、それぞれから意見を聞いていきたい。</p> <p>(決定事項)  所管調査参加人数 4 名（久野委員長、木村副委員長、久保委員、若木委員）  不参加：今井委員、海道委員      事務局随員：鶴巻  ・今井委員、海道委員退席後、日程表による工程確認。  ・16日久野委員長が来庁し、詳細について事務局と打ち合わせを行なう。</p> <p>(意見等)  今井) 今回の事故はかなり大きな事故であり、マスコミの注目度もすごい。現状でも先が見通せない状況である。今行くということ一度見直し、日程を変更したほうが良いのではないか。区切りがついた時点での実施とした方がいいと考える。時期尚早ではないか。  木村) 区切りがついたときとはどんな時期か。例えば全員が見つかった時とかそういうことか。</p>						

今井) 議員は別格ということではない。区切りがついたといっても、いつだとか、そういうことではない。この事故を考えた場合、時期を変更して実施してはどうかということである。

久野) 事故から2週間経ち、ある程度落ち着いてきていると考える。今の時期で実施していいのではないか。

今井) まだ落ち着いていないではないか。対岸の事故、他人ごとではない。議員だからということではない。

久野) 議員としてはあくまでも公務として職務を淡々とこなしていくことが必要。

今井) その点は理解している。しかし、現状ではそういう時期ではないということ。

久野) 時期を見てということだが、いつならいいのか。またその時期ならいいということか。この件に関しては24日にラインも送っているが、返信が無かった。

今井) その時点ではそこまでの余裕もなかった。自分としては事故の重さを考えた場合、今回の所管調査にはいくことは出来ない。変更ならいつでもできるはず。相手方も理解してくれるのでないか。事務局にもその辺の連絡とかはなかったのか。

平田) 依頼文書を発送する時期が遅かったということもあり、その確認で古平町から電話が来たが、事故に関して大変な時期であり、来られるのかと心配もされた。また、11日に札幌市での研修会に参加した際、古平町、仁木町の議会事務局長に挨拶し、話もしてきたが心配はされていた。

久保) 事故が発生した時から延期したほうがよいのではないかと伝えてきた。公務として行くものだが、どうしても感情的に考える部分も生じる。こういうことを踏まえて正副委員長でよく打合せして決めてほしいと伝えてきた。委員長の責務として決定されたい。

木村) 議運でも事故に関して何かできないかという意見も出たが、議会として議員にできることは町政報告にもあったように見守ることにしかない。町民からは議会も何かという視点では見られる面もあるが、議員として何ができるのかということ考えた場合、職務をこなしていくということが責務ではないか。

海道) 木村議員、久保議員が言うことはまさしくそのとおりであり、議員として粛々と職務をこなしていくというのはもったもだとは思ふ。しかし、自分としてはやはり、このような大きな事故のあった直後という時期での実施には賛同できない。やはり、立ち止まる、考え直すということは必要でないかと考える。

若木) 最初に事故の報告の受けたときに議員として何ができるのかということ考えたが、実際に何もできないというふう感じた。日程的に収束しているということではないが。委員会として決定した事項であり自分としては参加する。

海道) 委員長に確認するが、この件は個人的な判断として決定するというのでいいのか。

久野) 事情は様々であるので、本来的には全員参加が望ましいが仕方がない。

今井) それでは私は参加しない。

海道) 私も参加しない。

久野) そういうことであれば委員は4名、事務局随員は1名ということで実施する。

音声データ : 04 [音声] 220513\_第1回総文委員会